

令和7年度「元気じゃけんひろしま21(第3次)推進会議」全体会議 会議録

- 1 開催日時 令和8年3月18日(水)19:00～20:30
- 2 開催場所 広島市役所2階 講堂
- 3 出席者 出席者名簿のとおり(委員26名、オブザーバー8名、関係課7名)
- 4 傍聴人 0人
- 5 議題
 - (1) 本市の健康寿命の令和4年値について
 - (2) 令和7年度取組状況及び令和8年度計画について
 - (3) 令和8年度「元気じゃけんひろしま21(第3次)」の推進体制について

6 発言要旨

区分	発言要旨
事務局	【議題1】 資料1に基づき説明
座長	ただ今の事務局説明を受け、意見や質問はないか。(意見・質問無し)
座長	【議題2】 各団体から、資料2に基づき説明いただきたい。
委員	学会活動を毎月1回、学校医および産業保健の連絡会や研修会等を年1回実施している。在宅医療・介護連携事業は平成27年から実施し、府中町・海田町・熊野町で居宅支援や訪問サービスを運営し、平成29年には在宅医療・介護連携支援センターを開設し、相談窓口として機能している。令和元年からは主治医・副主治医制度を導入し、休日等に対応できない場合の代替体制を整備している。 また、多職種連携情報共有システムを活用して在宅療養支援の体制を維持しており、継続する予定である。
委員	今年度は、「安佐地区地域ケアフォーラム2026」を市民公開講座形式で開催し、308名が参加した。フォーラムでは、「今日から始める！骨活で健康づくり」をテーマに、広島市北部医療センター安佐市民病院の医師が骨粗しょう症治療の重要性について基調講演を行った。事前に20件以上の質問が寄せられるなど、関心の高い内容であった。続いて、安佐北区厚生部地域支えあい課の地域支援担当課長、歯科医師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士の5職種によるシンポジウムを行い、特に高齢者の骨折が寝たきりや認知症の発症や増悪につながる点について関心が寄せられた。 この他、医師向け研修会や安佐南北での集団研修を計72回開催するなど、活動を継続して実施している。来年度も引き続きこれらの取組を充実させていく予定である。
座長	資料のとおり、がん・循環器疾患・糖尿病・COPD に関する事業を実施した。中区・南区・西区・佐伯区の各医師会でも健康相談等の取組を行っている。予防接種講習会は令和7年8月5日に開催し、3演題の講演を実施した。学校医部研修会は令和7年12月3日に開催し、起立性調整障害や便秘に関する講演を行った。また、病診連携・診診連携や救急体制の充実に向け、令和8年2月10日に合同会議、3月17日に救急医療体制の検討委員会を開催した。今後もこれらの取組を継続する予定である。
委員	各地区で次世代を対象とした「いい歯の日」キャンペーンを実施している。また、啓発事業として高校生・中学生・障害者福祉施設利用者・介護者など対象を明確化し、歯科相談や歯磨き指導、約3,000部のリーフレット配布を行った。 広島市のアウトリーチ型オーラルフレイル予防事業では、包括ごとに選定した団体で、ポピュレーションアプローチとハイリスク者への支援を実施した。加えて、母子・学校・成人歯科保健など各種事業を展開し、地域口腔保健活動の人材育成として年間約12回の研修会を実施した。来年度も同様の事業を継続する予定である。

委員	「栄養の日」事業は、8月4日を中心に実施しており、今年度は県内6支部8か所と、認定栄養ケア・ステーション11か所で、「減塩で美味しく食べるコツ」をテーマに教材提供や栄養相談を行った。また、「食と健康のセミナー」を企業と共催し、「健康寿命の延伸に向けてー睡眠と栄養から始める実効性のある健康づくりー」をテーマにオンデマンド配信を実施し、会員が視聴している。来年度も同様の事業を継続し、実施箇所の拡充を予定している。
委員	コロナ禍を経て、様々な活動が活発化する中、常設型とイベント型の「まちの保健室」を通じて健康相談や健康チェックを実施している。地域イベントに合わせ、看護職や認定看護師を派遣し、健診受診の促進や生活習慣病予防の啓発に努めている。 また、医療機関や福祉施設で感染拡大を防止するため、専門の看護職を派遣し、職員の感染症対応力向上を支援している。なお、9ページの依頼件数については、広島市内の昨年度実績は0件であり、記載内容を訂正する。来年度も、職員教育を通じて地域住民の健康づくりに寄与する取組を継続する予定である。
委員	各種イベントで健康教室等を行っているが、「やく薬フェスタ」として、広島駅南口地下広場で昨年同様にステージプログラムや子ども薬剤師体験、お薬相談、学校薬剤師ブース等を設置し、約450名が来場した。ステージでは、昨年度のフラダンスに加え、エンゼルフィッシュ音楽クラブによるダンスと太鼓演奏を実施し、来場者の関心を集めた。アンケートは昨年の反省から Web 回答から紙回答方式に変更し、約250名から回答を得ることができ、概ね好評であった。寄せられた意見を来年度の取組に活かす予定である。
委員	今年度は資料のとおり、周産期から終末期まで切れ目なく口腔衛生サービスを提供した。特に20歳の節目年齢歯科健診が新たに加わり、今後は節目健診の拡充と受診率向上に一層取り組んでいきたい。 来年度は、子どもの口腔機能発達不全症について、保護者や保育・教育関係者向け資料を用いた啓発を進める予定である。また、高齢者の口腔機能低下症の予防にも一層力を入れて取り組む方針である。
委員	事業場における労働者の健康保持増進のため、運動指導、栄養指導、メンタルヘルス、保健指導が適切に実施されるよう、セミナーや意識啓発、相談支援を行っている。また、事業場訪問によるセミナーのほか、実地相談や電話・メールでの支援も実施している。 今年度は、健康経営に着手したいが方法が分からない企業が多い現状を踏まえ、健康経営セミナーを開催した。講演に加えて、実際に取り組む3社による事例発表を行い、参加者からは具体的なイメージが持てたとの意見が寄せられた。
委員	当監督署は、事業場に対する指導を主な業務としている。健康面では、近年関心が高まるメンタルヘルスに重点を置き、集団指導などを実施している。 また、災害防止については増加傾向にある行動災害や、高齢労働者の労働災害防止を中心に取り組んでおり、今後もこれらの分野を重点として指導を進めていく方針である。
委員	被扶養者の特定健診の実施率向上のため、集団健診会場を56会場113日程で設けるほか、春・秋に広島市内のホテルを貸し切った大規模集団健診を実施し、1,000人以上が受診している。また、がん検診も同時に受診したいという要望に応え、広島市を含む21市町と連携し、特定健診とがん検診を同時に受けられる会場を設置している。 さらに、健康経営を推進する健康宣言事業では約5,400社が参加しており、そのうち健康づくり優良事業所の認定を希望する3,000社以上のうち2,670社を認定している。来年度からは、未認定事業所に対しても積極的に訪問し、改善支援とフォローを強化する方針である。

委員	特定健診の受診率向上に向け、広島県保険者協議会において受診勧奨ポスターを作成し、広島県医師会・薬剤師会の協力のもと、特定健診実施機関や県内調剤薬局へ配布している。また、保険者支援として受診勧奨に必要な基礎データ提供を行っている。 さらに、県内小中学生を対象とした健康づくりポスター募集を実施し、被保険者の健康意識の向上を図っている。加えて、広島市主催の健康まつり等で活用できる骨密度測定器や野菜摂取量測定器の貸し出しも行っている。来年度も同様の取組を継続する予定である。
委員	今年度は、元気じゃけんカレンダー及び各方面からのポスター等の掲示を行っており、来年度も同様の取組を継続予定である。
委員	市民が身体だけでなくメンタルも含め、心身ともに健康に暮らせることを重視し、研修会を通じた人材育成と市民への啓発に取り組んでいる。今年度は3つの研修会を開催し、特に「トラウマインフォームドケア」の考え方の普及や、地域連携に関する啓発を進めた。来年度も資料に記載のとおり、同様の取組を継続して実施していく方針である。
委員	当協会は、広島市の認定のもと、食品衛生法に基づく食品衛生責任者養成講習会を実施しており、公衆衛生学や疾病予防などの講習を行っている。感染予防対策としてe ラーニングも導入し、今年度は計29回の講習を実施し、約2,000名が受講の見込みである。また、生活衛生推進事業として食品衛生指導員約80名が活動し、高齢者いきいき活動ポイント事業にも参加している。さらに、食中毒予防を専門事業として位置づけ、健康寿命の延伸にも寄与する取組を進めている。来年度も資料のとおり事業を継続する予定である。
委員	当施設は、健康科学館と健康管理増進センターの2部門で事業を実施している。 健康科学館では、資料に記載のとおり各種企画を開催し、ヘルスサポーター養成講座では循環器専門医による高血圧の講義を行った。 健康管理増進センターでは、施設検診と出張検診を実施し、出張検診は約400回、そのうち特定健診と5つのがん検診の同時開催を89回実施した。また、令和3年から夜間集団検診を5会場で実施している。胃がん検診では早期発見を重視し、経鼻内視鏡を積極導入して受診しやすい環境を整え、昨年度は約50件の早期がんを発見した。さらに、糖負荷試験や禁煙外来などの専門外来を実施するとともに、被爆者健診も継続して行い、受診者の約3分の2を出張検診で対応している。
委員	「健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023」の普及啓発を主な取組としており、医師会と連携しながら正しい運動指針を市民へ伝える活動を行っている。エビデンスに基づく安全な運動実践を広めるため、人材育成にも力を入れている。また、運動による怪我の増加が懸念される中、現場で丁寧な指導を行うことを重視している。 職域では高齢労働者への運動指導や体力測定を実施し、各区保健センターでは指導士が出向いて、広島市の健康寿命延伸の重点である「身体活動・運動」の普及に取り組んでいる。
委員	今年度は法人化20周年を迎え、活動展示やレクリエーション事業につなげる「学び合おう交流会」を開催した。また、3月には県内4つのレクリエーション協会が協力し、記念研修会を実施した。 来年度は、サマーキャンプ、各種チャレンジ体験スクール、ウォークラリー大会、フラワーフェスティバルでのブース出展、地域サロンへの講師派遣、スポーツレクリエーションフェスティバルへの指導者派遣、ねんりんピック予選会、サロン運営者研修、レクリエーション見本市、インストラクター養成講座など、今年度と同様の事業を継続して実施する予定である。

委員	スポーツ推進委員は、各小学校区の体育協会と協力し、地域住民がスポーツを通じて元気に過ごせるよう、大会や行事を企画・運営している。広島市全体では約400名が所属し、毎年リーダー養成講習会と区別伝達講習会を実施している。 今年度はウォーキングホッケーの講習を行い、各区のリーダーが学区に内容を伝達した。また、実務研修として2年に1回の普通救命講習を実施し、スポーツ活動時の緊急対応力向上を図るとともに、各学区のAED設置場所の再確認を行った。来年度も同様の研修を継続する予定である。
委員	老人クラブでは、コロナ禍の影響により行事参加者や会員数が減少しているが、昨年からV字回復を目指して取組を進めている。現在の会員数は約2万1千人であり、加入促進を重点に置いている。 活動紹介として配布している「明るく、楽しく、健やかに」のチラシでは、認知症予防、高齢者いきいき活動ポイント、仲間づくり、趣味活動、スポーツ・レクリエーション、地域奉仕活動など、多様な取組を提示している。また、佐伯区では「入会おすすめ運動」チラシを作成し、健康、交流、趣味、地域貢献といった幅広い活動に参加できる点を強調して入会を促進している。 佐伯区の広報紙「ふれあい」では、区長とシニアクラブ会長の挨拶を掲載し、活動が地域づくりに不可欠であることを紹介している。今年度の重点テーマは「人生百年時代」であり、今後、平均寿命が107歳に達すると見込まれる中、健康寿命との差を縮める取組が重要となる。このため、認知症予防活動を重点化し、区役所・包括支援センターと連携して、佐伯区では35クラブ中30クラブが実施した。広島市からは会員全員に認知症チェックリストが提供され、一定基準を超える場合は包括支援センターにつながる仕組みの普及も進めている。 さらに、昨年度は佐伯区で初めて「認知症カフェ」を設立し、交流と支援の場づくりを進めた。あわせて「元気じゃ健診」の受診促進にも取り組み、健康寿命の延伸につながる活動を強化している。
委員	各地区で特色ある取組を展開しており、地域の実情に応じた活動が行われている。東区早稲田学区は、「防災に特化したまちづくり」が高く評価され、今年度内閣総理大臣表彰を受けた。山間の崖上に位置する地域であるため、防災は命を守るうえで不可欠であり、防災に詳しい住民の協力を得ながら継続的に取組を進めてきた結果である。 災害はいつ起こるかわからず、どこも安全とは言い切れないことから、地域の実情を踏まえたまちづくりが重要であると考えている。希望があれば、防災に関する知見の提供も可能である。社協としては、「どう命を守るか」を中心に据え、地域の防災力向上に取り組むことが役割であると認識して活動している。
委員	公衆衛生の取組として健康教室や健康診査サポーター養成講座を実施し、地域や時期に応じたテーマで健康づくりを推進している。今年度は74地区で健康教室を開催し、延べ2,647名が参加した。また、地域のまちづくりに関しては、公衆衛生組織として、資料の①から⑦までに示す各種活動を進めてきた。来年度も、これらの活動内容をさらに掘り下げ、地域に根ざした公衆衛生活動を継続していく予定である。
委員	市内8区・137学区の体育協会で構成され、連合会としては広島市スポーツ・レクリエーションフェスティバルとスポーツ講演会を中心に事業を実施している。また、各区の事業に対する支援も行っている。 スポーツ・レクリエーションフェスティバルは、若年層から高齢者まで幅広い市民を対象に生涯スポーツへの関心を高める催しであり、サブグラウンドでは子どもたちがニュースポーツを体験している。この体験を通じ、将来多方面で活躍する選手が育つことを期待している。今年度は前年より1,000人多い約4万2,000人が参加した。 また、毎年11月にはスポーツ選手や関係者を講師に招いたスポーツ講演会を開催し、日常生活や地域活動に生かせる話を提供している。さらに、広島男子駅伝には市内8区から約2,000人のスタッフを派遣し、安全確保に努めている。

委員	地域の社会福祉協議会や包括支援センターと連携し、支援活動を行っている。今年度は、研修会や集いを通じて心身の健康づくりを促し、高齢者や障害者の引きこもり・孤立防止に取り組んだ。また、認知症カフェを開催し、家族が相談できる場や気持ちの負担を軽減できる場づくりを進めた。 見守り活動においては、緊急連絡カードの携帯を 促すほか、帽子や靴への氏名記入など安全確保の必要性も啓発している。訪問時には健診受診のリーフレット配布や季節に応じた声かけを行い、夏には熱中症予防の注意 喚起を行っている。来年度も、継続して見守り活動と情報提供に取り組んでいく予定である。
委員	中国新聞では、人生100年時代を見据え、暮らし面で高齢世代の生活に役立つ記事を重点的に発信している。老後資産、定年後の働き方、デジタル活用、社会参加などのテーマを記者が深掘りし、分かりやすく紹介しているが、最も重要な情報は健康関連であると考えており、シニア向けの健康・医療情報を今後さらに充実させる方針である。 自身の経験としても、30年前と比べて高齢者向けの記事が増加しており、子ども向け感染症よりもフレイル予防や認知症ケアの記事が多くなっている。また、遺言書、エンディングノート、相続関連の記事の増加も時代の変化を反映している。 加えて、心の健康に寄り添う情報発信の重要性も高まっており、ストレス社会に対応するため、専門家による対処法だけでなく、当事者の声や相談窓口の紹介などにも積極的に取り組んでいる。中国新聞は報道機関としての社会的責任を自覚し、誰もが安心して暮らせる社会の実現に向け、健康・医療分野の情報発信を一層強化していく考えである。
西区	西区では、多くの団体・企業と連携し、健康づくりに関する取組を進めている。無印良品アルパーク店とは、「まちの保健室」や月1回のげんきアップ講座を共催し、フレイル予防や親子向け企画など幅広いテーマで活動している。また、企業や学校と協力して毎年5月に健康フェスタを開催している。 スーパーマーケットとの連携も進めており、フレスタでは食に関する POP 掲示や健康相談会、フレイルチェック体験会を実施している。 さらに、親子向け事業としては、「元氣じゃけんツアー」を実施し、芋掘りやわかめ収穫体験を通じて食や栄養への理解を深める機会を提供した。参加者からは地元食材や地産地消への関心が高まったという意見が寄せられた。 今後も保健センターとして、若い親世代をはじめ多世代に向けて健康づくりの取組を継続していく方針である。
事務局	差替資料4に基づき報告 当課では今年度、新たに「朝ごはん」「野菜」「減塩」「栄養バランス」の4テーマでレシピ付きの啓発チラシを作成した。若い世代で朝食欠食、野菜不足、食塩過多、栄養バランスの偏りが課題であるため、簡単に実践できる方法を示している。また、骨粗しょう症予防と節目年齢歯科健診の動画も制作し、各団体での活用を呼びかけている。
座長	ただ今の報告を受け、意見や質問はないか。（意見・質問無し）
事務局	【議題3】 資料5に基づき説明
座長	ただ今の事務局説明を受け、意見や質問はないか。（意見・質問無し）
副座長	本日は、第3次計画の本格始動に向け、各団体から熱意ある報告が寄せられた。大学教育に携わる立場から、若年人口の減少により将来の担い手が大幅に減る現状を強く実感しており、2040～2050年には高齢者を支える人口も大きく不足すると予測される。そのため、健康寿命の延伸に向けた取組は社会全体の持続性に直結する重要な課題である。 健康日本21での多様な団体の活動は、この課題への大きな貢献となり、今後さらに価値が高まると考える。令和4年に本市の健康寿命が全国1位となったのは、第1次計画や第2次計画の成果であり、今後もこの結果を維持できるよう、引き続き連携した取組を期待している。

事務局	皆様の協力により、本日の議事は全て終了した。円滑な進行に対し、改めて感謝申し上げます。 「元氣じゃけんひろしま21(第3次)」推進会議の委員任期は2年であり、現委員は令和8年3月31日をもって任期満了となる。来年度は委員改選の年となるため、年度明けに事務局から各団体へ次期委員推薦の依頼文書を送付する予定である。引き続き御協力いただきたい。
-----	--